

北海道気候変動適応計画(素案)について

令和元(2019)年12月
北海道

1 計画策定の趣旨等

計画策定までの経過

【H30.9】

「北海道における気候変動の影響への適応方針」策定

近年の異常気象による被害の発生等を踏まえ、本道における「適応」の取組の方向性を示すものとして策定



【H30.12】

「気候変動適応法」施行

【R1.3(予定)】

「北海道気候変動適応計画」策定

法定計画として、「適応」の取組を総合的かつ計画的に推進するために策定

計画の位置付け

- 「気候変動適応法」に基づく「地域気候変動適応計画」
- 「北海道環境基本計画」の個別計画
- 「持続可能な開発目標(SDGs)」に掲げる目標の達成に資するもの

計画期間

- 概ね5年
- 国の動向等を勘案して必要に応じて見直し

2 気候の長期変化と将来見通し

「北海道の気候変化」(平成29(2017)年3月 札幌管区気象台発表)を基に整理

これまでの長期変化

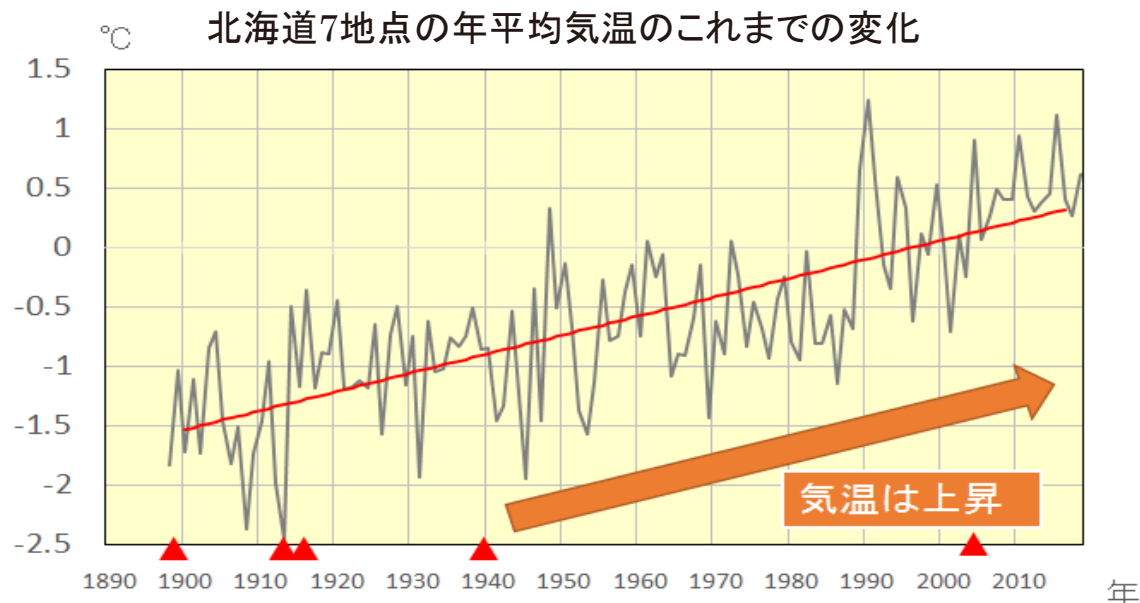
- 平均気温はおおよそ1.6°C上昇
- 冬日・真冬日の日数減少
- 日降水量70mm以上の年間日数が増加傾向
- 最深積雪量が減少傾向

など

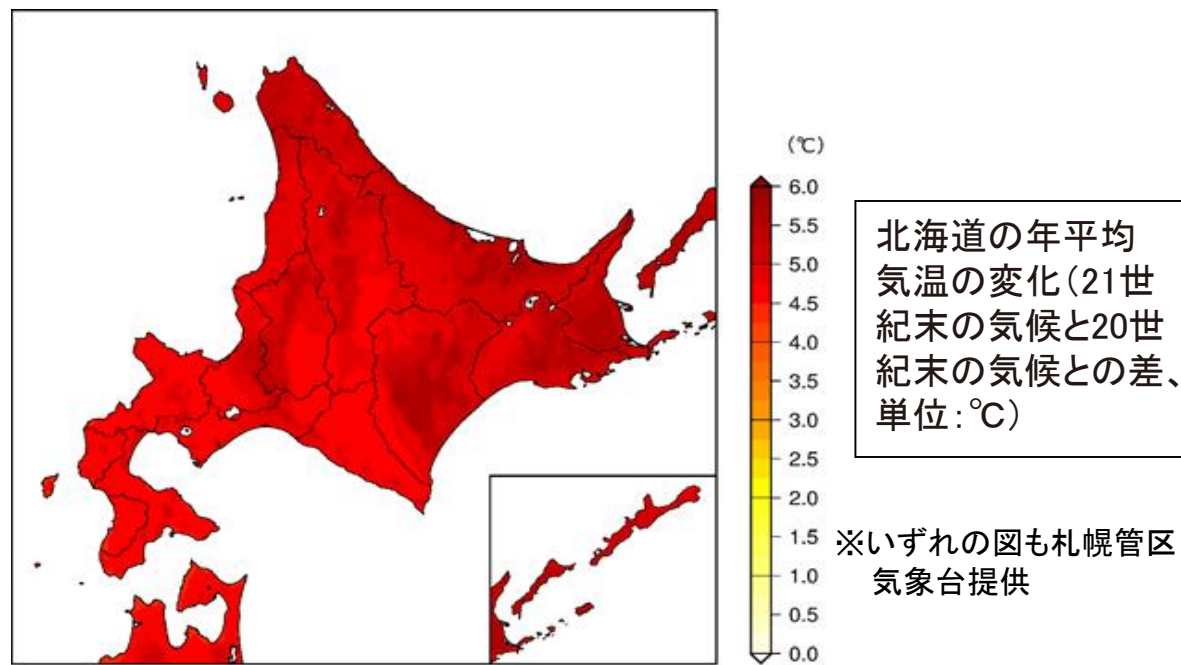
将来見通し(21世紀末)

- 平均気温は20世紀末を基準に5°C程度上昇
- 夏日は30日/年程度増加、冬日は40日/年程度減少
- 年降水量は概ね10%増加
- 大雨短時間強雨の頻度が増加

など



北海道の年平均気温の将来変化



3 気候変動による影響の例

国の「気候変動影響評価報告書」等を基に、本道で予測される影響等を整理

分野	予測される影響等
農業	<ul style="list-style-type: none">・ 水稲など一部作物の収量の増加・ 病害虫の発生増加や分布域の拡大
水産業	<ul style="list-style-type: none">・ ブリなどの分布・回遊域の変化・ シロザケの生息域減少
自然生態系	<ul style="list-style-type: none">・ 高山帯・亜高山帯植物の分布適域の変化や縮小・ エゾシカ等の分布拡大
自然災害	<ul style="list-style-type: none">・ 洪水をもたらす大雨事象の増加・ 海面上昇の発生
健康	<ul style="list-style-type: none">・ 熱中症搬送者の増加・ 節足動物媒介感染症のリスク増加
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 自然資源を活用したレジャーへの影響・ ライフラインへの影響

4 適応の推進方策

適応の取組に関する4つの基本方向

1 本道の強みを活かす適応の取組の推進

- 本道の地域特性等を踏まえ、4つの分野について、重点的な取組を推進

分野	主な取組の視点
自然環境	自然環境の保全と多様な機能の防災・減災への活用
産業	地域資源を活用した安全安心な食糧供給・観光業振興
自然災害	各地域の地理的特性等を踏まえた災害に強い地域づくり
生活・健康	道民の生命・生活の確保、災害に強い交通基盤整備

2 情報や知見の収集と適応策の検討

- 関係機関などと連携し、最新の科学的知見等を収集
→ 更に適応策を検討

3 道民や事業者等の理解促進

- 情報発信、普及啓発の実施
- 「気候リスク管理」「適応ビジネス」の促進

4 推進体制の充実・強化

- 「地域気候変動適応センター」機能の確保検討
- 庁内組織を活用した適応策の展開

各主体の役割

道

- ・計画策定、センター機能確保検討
- ・関係者と連携、協働した取組推進
- ・普及啓発の実施

道民

- ・「適応」への理解・関心を深め、自ら実践

事業者

- ・「気候リスク管理」の取組推進
- ・「適応ビジネス」の展開

市町村

- ・区域内の「適応」の取組の推進

計画の進捗管理

- 国の検討結果を踏まえ、進捗状況の把握・評価手法を検討
- 当面は、「4つの基本方向」に関連する施策等について、定期的に状況等を把握し、取りまとめを行う

